

トマス=アキナス, オッカム

2017 年追試

問 8 信仰と理性の関係についてのトマス・アキナスの思想の説明として最も適当なものを, 次の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 信仰も理性も等しい価値をもつが, 信仰によって得られる真理と, 理性によって得られる真理とは異なると考え, 両者を分離する二重真理説を説いた。
- ② 神が啓示した真理は, 信仰によって受け入れられるものであり, この真理の理解には理性が必要であるため, 信仰と理性は調和すると説いた。
- ③ 救済のために最も重要なのは愛であるが, 信仰も理性も等しく愛の働きを支えると考え, 信仰・理性・愛の三つの徳をもって生きることを説いた。
- ④ 人間の本性である理性と, 万物を貫く理性は同一であるため, 自然に従うことによって, その造り主である神への信仰にめざめると説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 8	18	②	2

2016 年追試

問 5 次のア～ウは，キリスト教において説かれた，信仰をめぐる様々な思想についての説明であるが，それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 15

ア 厳格な律法主義では罪の自覚しか生じないと考え，人が義とされるのは律法の行いではなく信仰によると主張した。

イ 誰が救われるかは神の意志によって予定されているのであり，信仰をもつことそのものが神の与える恩寵であると主張した。

ウ 理性により得られる真理と信仰により得られる真理は，調和するのではなく区別されるべきであるとして，哲学と神学の分離を主張した。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-------------|---|------------|
| ① | ア | ヨハネ | イ | マルクス・アウレリウス | ウ | トマス・アキナス |
| ② | ア | ヨハネ | イ | マルクス・アウレリウス | ウ | ウィリアム・オッカム |
| ③ | ア | ヨハネ | イ | アウグスティヌス | ウ | トマス・アキナス |
| ④ | ア | ヨハネ | イ | アウグスティヌス | ウ | ウィリアム・オッカム |
| ⑤ | ア | パウロ | イ | マルクス・アウレリウス | ウ | トマス・アキナス |
| ⑥ | ア | パウロ | イ | マルクス・アウレリウス | ウ | ウィリアム・オッカム |
| ⑦ | ア | パウロ | イ | アウグスティヌス | ウ | トマス・アキナス |
| ⑧ | ア | パウロ | イ | アウグスティヌス | ウ | ウィリアム・オッカム |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	15	⑧	3

2012 年追試

問 7 社会のなかの富の偏りの是正に関連する次の文を読み、文中の空欄 ～ に入る語句の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

信仰と理性の 的關係を重視した中世の神学者トマス・アクィナスは、当時ギリシア語やアラビア語から翻訳された の哲学に大きな影響を受け、その の考えを踏まえ、私有財産制度を認めつつ、同時に、貧者への施しなどを通して社会における富の偏在を是正する必要性を説いた。

- ① a 調和 b アリストテレス c 配分的正義
- ② a 敵対 b プラトン c 哲人政治
- ③ a 調和 b プラトン c 哲人政治
- ④ a 敵対 b アリストテレス c 配分的正義
- ⑤ a 調和 b プラトン c 配分的正義
- ⑥ a 敵対 b アリストテレス c 哲人政治

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	10	①	2

2010 年本試

問 2 元来、英語の《science》という語は、ラテン語のスキエンチア（知識一般）に由来する言葉であった。13 世紀に最盛期を迎えたスコラ哲学は、中世におけるスキエンチアの典型とみなされる。そのスコラ哲学の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① 存在忘却に陥った形而上学を解体し存在への問いを新たに開始する。
- ② ギリシア・ローマの古典を学ぶことによって人間の自立性を回復する。
- ③ ギリシア以来の哲学を用いキリスト教神学の教義を理論的に体系づける。
- ④ ただ生きるのではなく善く生きるための方法を対話によって学ぶ。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	24	③	2

2006 年追試

問 8 トマス=アキナスに関する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

11

- ① 神や自由というのも感覚的印象に由来する観念であり，それは習慣によって身につけられたものにすぎないとした。
- ② 理性的に正しいとされる真理と啓示された信仰の真理とは別であり，各々は独立的に存在するとした。
- ③ イスラーム世界経由で流入した古代ギリシア哲学を用いて，キリスト教神学をいっそう精緻せいじに体系化した。
- ④ キリスト教の三元徳である信・望・愛にギリシアの四元徳を従属させ，それらをあわせた七つの徳を初めて説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 8	11	③	3

2003 年本試

問 5 トマス・アクィナスに関する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

6

- ① 信仰と理性は相互に分離された異質な領域に属しており，神にかかわる信仰的实践を哲学によって基礎づけることはできないとした。
- ② 信仰と理性の区別を体系的に論じて，信仰の優位のもとで両者の統合を試み，倫理思想に関しても自然的徳は神の恩恵によって完成されるとした。
- ③ 一切は神から必然的に生じるものであり，倫理的問題に関しても，永遠の相のもとで事物を考察することによって判断されなければならないとした。
- ④ 人間の救済と滅びは神によってあらかじめ決定されており，人間は合理的で正しい行為によってもその決定を変更することはできないとした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 5	6	②	3